

様々な短歌を評価・比較する

1 指導のねらい

- (1) 様々な短歌を比較・評価できる。
- (2) 短歌に表現されている内容をとらえることができる。
- (3) 表現上の特徴をふまえた上で、短歌の鑑賞文を書くことができる。

2 指導過程

学習活動と発問 (発は発問)	指導上の留意点と評価 (評は評価)
<p>(1) 本時の学習のめあてを確かめる。</p> <p>(2) 学習プリント①の【短歌四首】について ①どの短歌が好きか、どの部分が好きかを自分たちの班で話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発 好きな短歌を一つ選び、どの部分の表現に魅力を感じたか、紹介しよう。</p> </div> <p>②【短歌四首についての意見交換】の様子を読み、様々なとらえ方を知る。</p> <p>③アとイの短歌に共通して表現されている気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発 伝えたい思いはそれぞれどんなだろう。短歌の言葉や自分の体験を根拠に考えよう。</p> </div> <p>(3) 【短歌四首】のウの短歌にこめられた情景や気持ちを考え、鑑賞文を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発 「きらざり」という擬態語はどんなイメージを表しているだろうか。</p> <p>発 この人物はどんなふうになりたいと考えているのだろうか。</p> </div> <p>①表現上の効果や作者の思いを考える。</p> <p>②学習プリント②を用いて鑑賞文を書き、それを読み合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な短歌を比較・評価する中で、その内容や特徴をとらえる学習であることを確かめる。 評 学習のめあてをとらえ、進んで学習に取り組もうとしているか。 ・学習プリント①は国語の時間に各自作成した短歌のうちの四首と、それらについて学習班で意見交換したときの内容であることを確かめる。 評 四首を比較し、自分の好きな短歌をその理由とともに紹介できているか。 ・星野くんと西岡さんが話題にしているのはどの短歌かを指摘させる。→エ ・意見交換の内容も参考にさせる。 評 短歌に表現されている内容をとらえられているか。 ・表現上の特徴を理解させたいうえで、短歌の鑑賞文を書かせる。 ・条件を提示する。(学習プリント②参照) ・評価の観点を決めて相互評価させる。 評 表現上の特徴を理解できているか。人物の思いがとらえられたか。

【短歌四首】

- ア ごめんねと素直に言える未来^とを待ちドア越しに聴く包丁の音
- イ 夕暮れに長く伸びてるきみの影踏んでひそかに心伝える
- ウ ぎらぎらり太陽浴びて伸びていくひまわりみたいに今日こそなるぞ
- エ あと一点ゴールに向かうマイボールリングにはねてごろり転がる

【短歌四首についての意見交換】

星野くん	この短歌、おもしろいなあ。その試合の一瞬の場面、そこで起こった事実しか述べられていないのに。
西岡さん	そうね。でも、よく読むと、初句に気持ちがぎゅっとつまっているように感じる。事実の裏に思いが隠れているというか、重ねられているというか。
宮本さん	短歌を作るときには、その独特のリズムの中に事実や思いをどうやって表現していくかというのが大きな特徴よね。そういう意味では、ウの短歌のように擬態語で始まるのも読んでいる人を引きつける大きな工夫だと思うわ。
矢野くん	これも見てみて。このアとイの短歌は全く違うテーマなのに、同じような気持ちが表現されている気がするなあ。
宮本さん	実はアの短歌を作ったのは私なの。この間母とケンカしちゃって、なかなか仲直りできなくて……。実話なのよ。
西岡さん	そうだったのね。イの短歌の作者は私。どんな場面だとか、どんな思いを抱いているとか分かるかしら。

星野くんの学級では、国語の時間に各自がつくった短歌を持ち寄って、学習班で意見交換をしました。次の【A】は、つくった短歌、【B】は意見交換の様子の一部です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

ア ごめんねと素直に言える未来を待ちドア越しに聴く包丁の音

イ 夕暮れに長く伸びてるきみの影踏んでひそかに心伝える

ウ ざらざらり太陽浴びて伸びていくひまわりみたいに今日こそなるぞ

エ あと一点ゴールに向かうマイボールリングにはねてごろり転がる

【B】

星野くん この短歌、おもしろいなあ。その試合の一瞬の場面、そこで起こった事実しか述べられていないのに。

西岡さん そうね。でも、よく読むと、初句に気持ちがぎゅっとつまっているように感じる。事実の裏に思いが隠れているというか、重ねられているというか。

宮本さん 短歌を作るときには、その独特のリズムの中に事実や思いをどうやって表現していくかというのが大きな特徴よね。そういう意味では、ウの短歌のように擬態語で始まるのも読んで人を引きつける大きな工夫だと思うわ。

矢野くん これも見えてみて。このアとイの短歌は全く違うテーマなのに、同じような気持ちが表現されている気がするなあ。

宮本さん 実はアの短歌を作ったのは私なの。このあいだ、母とケンカしちゃって、なかなか仲直りできなくて……。実話なのよ。

西岡さん そうだったのね。イの短歌の作者は私。どんな場面だとか、どんな思いを抱いているとか分かるかしら。

一 星野くんと西岡さんが話している短歌の「初句」に当たる部分を【A】の短歌の中から書き抜きなさい。

二 アとイの短歌に共通して表現されているのはどのような気持ちですか。二十字程度で答えなさい。

三 ウの短歌の鑑賞文を、次の条件にしたがって百字以上百四十字以内で書きなさい。

条件1 擬態語の表現上の効果に触れること。

条件2 ここに出てくる人物のどのような思いが感じられるかを書くこと。

◎ 出題のねらい

- ・ 様々な短歌を比較・評価することができるかどうかをみる。
- ・ 短歌に表現されている内容をとらえることができるかどうかをみる。
- ・ 表現上の特徴をふまえたうえで、短歌の鑑賞文を書くことができるかどうかをみる。

【解答例】

一 あと一点

二 (例) 心に思いながらも伝えきれないもどかしさ。(二十字)

三 (例) 真夏の太陽の強烈な光線は目も開けられないほどである。ぎらぎらりという擬態語にはその状態をよりわかりやすく伝える効果がある。真夏の太陽に負けるどころか自らのエネルギーにし、成長を続けるひまわり。その力強さを目の当たりにし、弱音を吐く自分を奮い立たせようとしている思いがうかがえる。(百三十九字)

*

次の条件を満たして書いているものを正答とする。

- (1) ぎらぎらりという擬態語の表現上の効果に触れて書いている。
- (2) 短歌の中の人物の思いを書いている。
- (3) 百字以上百四十字以内で書いている。